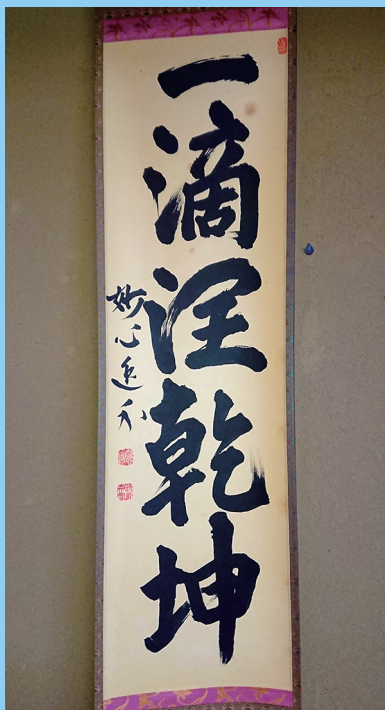


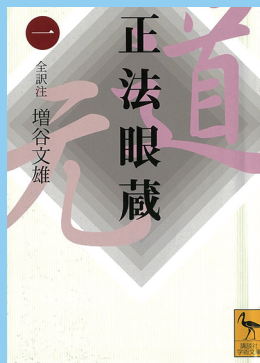


「一滴乾坤を潤す」
筆 元妙心寺管長 梶浦逸外老大師
(明治二十九年〜昭和五十六年)

この軸も何度目かのご紹介です。
「乾坤」とは宇宙のこと。幕末岡山の曹源寺に宜牧^{ぎぼく}という雲水がいました。ある日、風呂の残り水を捨てようとしたところ、師の儀山^{ぎざん}禪師に一喝されます。「バカ者、なぜ木の根にかけぬ、一滴の水も粗末にするな!」と。以来、宜牧は一生懸命修行して五十歳の若さで天龍寺管長になると、号を滴水^{てきすい}と改め、七十八歳で亡くなるまで水を大切にされたそうです。

實相寺 花園会報

平成三十年
六月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<http://www.jissouji.net>
第111号



・『正法眼蔵』読書会
香川短期大学の中俣先生と一緒に、5月より開催しています。次回は6月12日(火) 13時30〜15時 無料 要問い合わせ
・沙羅の花が満開です
本堂前の沙羅が綺麗に咲いています。是非一度ご覧になりにお越し下さい。
・「白隠さんの会」会員募集中
遠諱整備事業を機に、このたび白隠禪師の由緒地を護持する奉賛会が発足しました。年会費3千円です。特典もありますので是非ご入会下さい。

各種ご案内



・一日坐禅会
6月24日(日) 7時〜15時30分
住職が臨床仏教師講座で取得した内観法やマインドフルネスなども取り入れ開催します。参加費5千円 要申し込み
・四国東教区人権研修会
7月21日(土) 10時〜16時 昼食付無料
場所 観音寺市民会館 6月末までにお寺に申し込み
下さい。
傾聴の講座も受けられます。

白隠さんの会

白隠禪師 奉賛会
ご入会のご案内

白隠尊師は、江戸時代に活躍した臨済宗を復興し、「臨済宗中期の巨匠」として知られる名僧です。多くの著名な詩人や俳句・書道で師の教えを民衆に広めたことから、「白隠さん」と愛称され、明治時代には「白隠の会」が組織されました。平成29年は白隠尊師の250年忌の年であり、妙心寺派はさまざまな法要や事業を実施する中で、貴会の御力が運んでいくことを願っています。修行の場である正法眼蔵の復元・整備に尽力していただきますようお願い申し上げます。

後援記念事業は平成30年3月末をもってひとまず終了しましたが、妙心寺派では後援の発展とその教を永く後世に受け継ぐために、「白隠さんの会」を立ち上げることになりました。

「白隠さんの会」では、白隠尊師の教を共に学び、くぐり、修め、共に白隠の復興・発展に貢献してまいります。

貴会方には本会の趣意をご理解いただき、ぜひともご入会いただけますようお願い申し上げます。

ご入会方法
本会の目的に賛同し、会費を支払う方は、「白隠尊師の会」に必要事項を記入の上、お振替または現金でお申し込みください。お振替の場合は、お振込先は「1330000」になります(10〜1000円、1000円以上は10000円単位で)。お振込の際は、必ず「白隠さんの会」の印を捺印し、お振込先にご記入の上、お振込先にお送りください。

お問い合わせ先
〒761-8035 高松市東区花園妙心寺町64 臨濟宗妙心寺高松地区センター内 ☎075-463-3121

随処ずいじょに主しゅと作るな⑤

「おかげさまの心

―いつでもどこでも仏さま 随処ずいじょ作主しゅ―

先月紹介した吉水さんの話を聞いた時「みんな同じ人間なのに」という言葉がとも印象に残ると共に、昨年亡くなった父のことを思い出しました。

生前、私は父とあまり仲が良くありませんでしたが、それは私が中学の時に小僧に出された為かも知れません。しかし父の死後、父の人生をあらためて客観的に見つめることが出来ました。

私が小僧に出されたのは十二歳でしたが父は六歳で寺に養子に出されました。しかも十二歳の時に住職だった養父が病死し、十六歳の時には空襲で寺も消失し

ています。考えてみれば父は私の何倍、何十倍もの辛い経験や苦勞をしてきたのです。そして父もまた、自らの境遇を選ぶことは出来ませんでした。「父も私と同じだったのか」と思うと、父にも様々な思いがあったことが想像できます。

また仮に父が私の意見を受け入れる人であつたならばどうでしょう。いくら寺の運営に意見を述べても聞き入れられないので、私は青年僧の活動や布教の勉強に精を出しました。その結果、布教師にもなれたのですが、そう考えるとあの父だったからこそ今の私は存在するのです。2月号で紹介したまどみちおさんの「けしつぶうた ゾウ2」からは「なんて素晴らしいことがあるものだ！私が私だっ

たとは！他の誰でもなかったとは！」というまどさんの声が聞こえて来るようです。そうなのです。みんな同じ人間ですが、自分という存在は世界にたった一人しかないのです。当たり前のことですが、その不思議なご縁の有り難さに、あらためて気づかされました。

臨済禅師は「随処に主と作れば、立処皆真なり」と仰いました。それは既に述べたように「どんな場所でも主体的に生きたら、そこがあなたにとっての真実の場所ですよ」という意味ですが、それから約三百年後、宋時代の大慧宗杲だいゑそうこう禅師は「真処しんじょを離れて立処りつじょに非ず、立処すなわ即ち真なり」と仰っています。これは「誰も自分以外の場所に立つことは出来ない。今あ

なたが立っている場所こそが、真のあなたの場所なのだ」という意味です。これは臨済禅師の教えを違う角度から説いている言葉です。

つまり「随処に主と作る」とは、自分の人生を全うするということです。「もし自分が〇〇さんだったならば」という仮定の話はあり得ません。人は皆、両親の不思議な出会いを縁に、先祖から脈々と受け継がれてきた命を頂いています。

そして頂いているこの命は生かすも殺すも自分次第です。どんな逆境に遇っても、自らの命を精一杯働かせて自由自在に生きること。これこそが「随処に主と作る」ということであり、本当の意味で自分を大切にすることなのです。